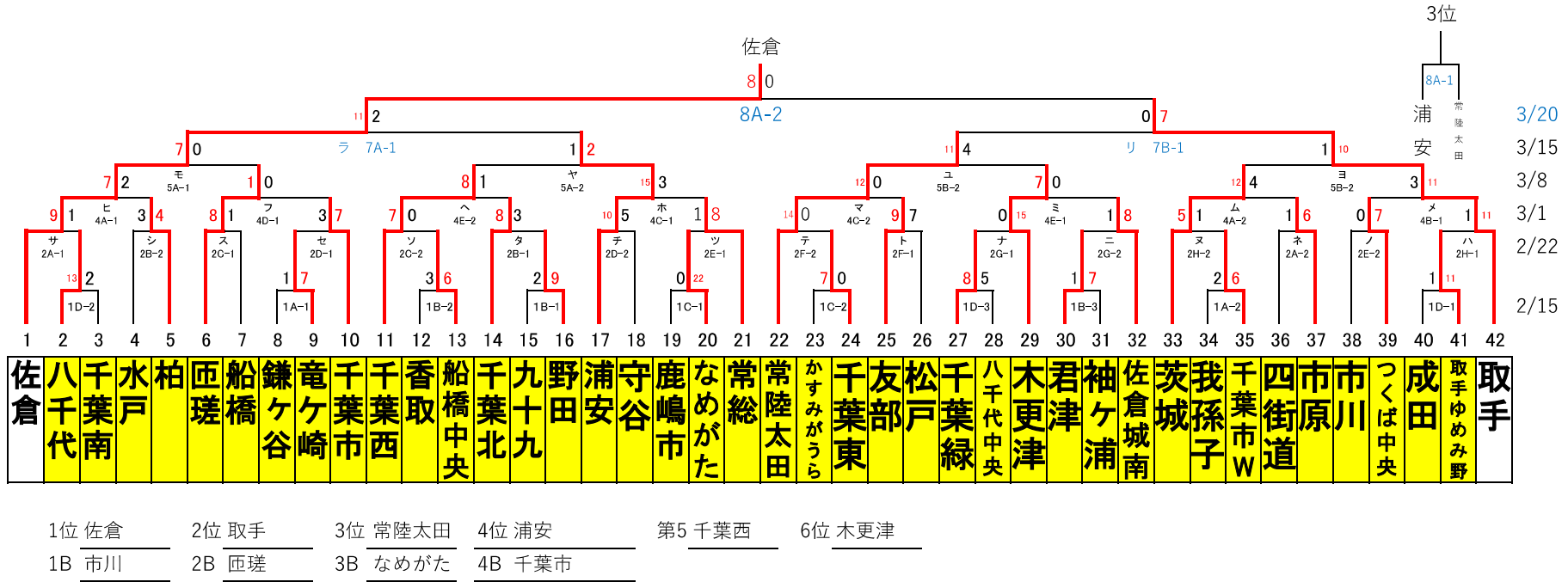


2026 茨城亜鉛工業杯東関東支部春季大会 大会要綱

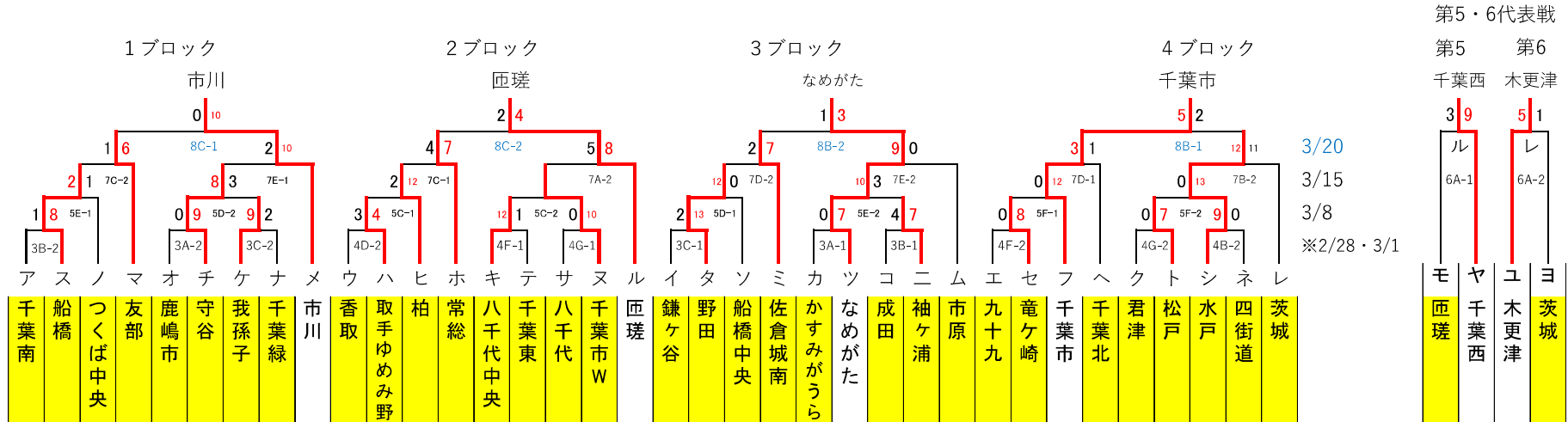
出場資格	東関東支部茨城ブロック12、千葉(西ブロック11、東ブロック7、南ブロック11チーム)29、計41チームに所属する複数登録チーム含めた登録選手(欠場:土浦)参加42チーム							
関東大会選考方法	支部大会のトーナメントよりベスト4、敗者戦より6チームの、計10チームが春季関東大会に出場する							
日程 試合開始時刻	予定日:2月15日(日)、22日(日)、28日(土)、3月1日(日)、8(日)、14日(土)、15日(日)、20日(祝) ・・・8日間 予備日:中止になった翌週の土曜日、祝日及び日曜日 第一試合9:00、第二試合11:00 第三試合13:00を原則とする							
審判員	支部派遣審判員並びに帯同専任審判							
大会規則	関東連盟大会規則による(同連盟HPにアップされている)。 ただし、決勝戦にも4回10点、5回7点のコールドゲームを適用する(3回13点を取り入れる)。 7回終了時もしくは、2時間を超えては新しいイニングには入らず、タイブレークに入る。(決勝戦も同様) タイブレークは決着がつくまで継続する。(決勝戦も同様) 敗者戦も含めて、当初組み合わせ表の若番チームを1塁側とする。 整列してのメンバー確認は行いません。選手カードとメンバー表のみの資格審査となります。 メンバー表記載の際、誤りのないよう注意願います(ポジション、背番号など)。 チームはグラウンド到着後速やかに(60分前までに)メンバー表と選手カードおよび合同チーム、複数出しのチームは登録書を提出願います。 投球制限は、日本リトルシニア関東連盟ガイドラインによる(様式Aと無記載の様式Bを本部に提出)。							
荒天時の対応	大雨等明らかに無理な場合を除き、天候不良の場合でも第1試合のチームは、基本的にグラウンド責任者に連絡することなく開始時間1時間前迄に集合すること。 グラウンド責任者は、天候不良の場合、天気予報、グラウンド状態を勘案し 支部競技部長と協議のうえ、極力早く中止又は待機を決定し該当チームに連絡する。 種々の都合により試合時間、グラウンド、審判員の配置等を変更することがある。							
表彰	優勝 ・ 準優勝 ・ 第3位 ・ 第4位							
大会競技委員								
グラウンド提供チーム	千葉ブロック				公営球場			
	チーム名	グラウンド連絡者	携帯番号	駐車台数(マイクロ含む)	チーム名	グラウンド連絡者	携帯番号	駐車台数(マイクロ含む)
	柏			10台(土曜日5台)	TOKIWAスタジアム			15台
	千葉北			10台	山桑球場			12台(大型×)
	木更津			15台(大型×)	大里ふれあい広場野球場			
	君津			20台	石下球場			10台
	茂原			10台	友部			20台
	柏の葉野球場				取手			20台(大型×)
	佐倉			10台	竜ヶ崎			15台
	九十九			10台	なめがた			10台
	東京学館G			10台	千葉県総合運動公園野球場			
	グラウンド提供チームにやっていただくこと ・グラウンド使用料、審判・役員弁当代及び飲料代の徴収、領収書発行 ・審判及び役員の弁当手配(800円程度) ・グラウンド責任者は、試合経過を関東連盟のHPにアップする							
	グラウンド使用料 審判役員弁当代等	グラウンド使用料	各チームは、当日朝グラウンド使用料として1試合当たり2,500円を提供チームに支払う。 又、公営グラウンドの場合は3,000円を支払う					
試合球		試合球は協会の公認契約スポーツメーカーの刻印が確認出来る硬式球とする。 試合開始前メンバー表(5枚)交換時に3球、試合中不足分はその都度拠出する。 試合後試合球は両チームに戻す。						
ロージン		試合で使用するロージンバックはメンバー表交換時に確認し両チームで管理する。						
役員及び審判弁当代		各チームは役員及び審判の分として購入金額(800円/人)を出場チームで均等に割った金額を弁当代として提供チームに支払う。 又、弁当代とは別に飲料代として各チーム1,000円を提供グラウンドに支払う						
審判交通費		派遣審判並びに専任帯同審判の交通費は各チームが、大会終了後支部事務局からの規約に基づく請求により支払うものとする						

2026年 茨城亜鉛工業杯東関東支部春季大会



3月20日グランド A：千葉県総合スポーツセンター野球場 B：柏の葉野球場 C：石下球場

敗者復活戦



2025関東大会タイムテーブル

第一試合

※7時30分グラウンド借り入れ会場の場合

Aタイプ・7分7分が有る会場		Bタイプ・7分7分が無い会場	
7時40分までに提出物（※1）を本部席（理事）へ提出してください。		7時40分までに提出物（※1）を本部席（理事）へ提出してください。	
7:30	グラウンド借り入れ 理事・審判員集合・ミーティング	7:30	グラウンド借り入れ 理事・審判員集合・ミーティング
7:40	グラウンド解放 グラウンドイン後ベンチ前に 用具を並べて用具チェック・ その後外野でアップ ※寒い時期はバッテリーに限り ボールの使用を可能とする場合がある。（理事の判断） 用具チェック後攻守決め *バックネット前 又は本部席	7:40	グラウンド解放 グラウンドイン後ベンチ前に 用具を並べて用具チェック・ その後外野でアップ 遠投・トスバッティングは シートノック迄可能 用具チェック後攻守決め *バックネット前 又は本部席
8:20	トスバッティング（7分以内） &キャッチボール（7分以内）		
8:40	シートノック * 7分以内	8:40	シートノック * 7分以内
9:00	試合開始	9:00	試合開始

第一試合開始は9時とし、早く開始しないようご協力をお願いいたします。

（1日3試合予定・天候によっては早めの開始は可能とします。）

第二試合

第二試合目以降のチームはグラウンド到着後速やかに提出物（※1）を本部席（理事）への提出を願ひ致します。

本部役員はアップ会場や用具チェックの時間やタイミングなどを説明する。

※3回終了を目安に攻守決めを行う。

※用具チェックは原則グラウンドイン後ベンチ前にて行う。（天候やなど時間短縮などで変更となる場合あり）

※当日のグラウンドコンディションや天候などにより予定のタイムテーブルと異なる事もあります。

※1 提出物（選手カード・指導者カード・メンバー表・投球数確認シート様式A）

グラウンド到着後、速やかに監督が本部席に提出をお願い致します。

※選手を並べての資格審査は行いません。（カードとメンバー表の照合のみとなります）

<様式 A>

※試合毎の投球数は、
様式 Bより転記する。

投 球 数 確 認 シ ー ト

[本部提出用] (試合終了後チームで保管)

大会名 : 2026茨城亜鉛工業杯関東東支部春季大会

チーム名 :

日本リトルシニア中学硬式野球協会

球 場 名																	
試 合 月 日		/		/		/		/		/		/		/		/	
対 戦 相 手		VS		VS		VS		VS		VS		VS		VS		VS	
背番号	投 手 名	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数
		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球
投球数カウント者 確認サイン (自チーム)																	
投球数カウント者 確認サイン (相手チーム)																	
監督 確認サイン																	

【投球数制限】

注) 打席の途中で制限数に達し当該打者の打席終了まで投球した場合、制限数を()外、実際に投じた投球数を()内に記入する。

- ① 1日最大90球以内とする。
② 連続する2日間で130球以内とする。
③ 3連投 (連続する3日間) する場合は、1日目45球以内、2日目の投球数を45球以内とし、3日目の投球数を40球以内とする。但し、1日目、2日目で、当該打者の打席途中で、投球数が45球になった場合は、その時点で投球を打ち切らなければならない。4連投 (連続する4日間) は認めない。
④ 上記 ① ② の場合において、打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了までは投球を認め、制限数を超過した投球は投球数にカウントしない。③ の場合3日目のみ打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了まで投球を認め制限数を超過した投球は投球数にカウントしない。
⑤ 1日90球投球後、翌日投球を休めば3日目は90球の投球可能。
⑥ 打者に対して投じた投球がボークとなった場合は、投球数にカウントする。

- また、12秒・20秒ルールに抵触して課せられたボールは投球数にカウントしない。
⑦ 申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球は投球数にカウントする。(例: 2ボール.1ストライクとなり申告敬遠をした場合、それまでに投じていた3球は投球数にカウントする。)
⑧ 雨などで特別継続試合になった試合も投球数にカウントする。
⑨ 異なる大会であっても、連日投球する投手は、統一ガイドラインに則った投球数制限で投球するようお願いします。
【本シートの運用方法】
① 試合終了後、本シート (原本) に両チーム投球数カウント者が投球数を記入し、サインをする。その後に、監督へ確認およびサインを受ける。
② 監督は、サインされた本シート (原本) を次の試合まで保管する。
③ 監督は、連戦等の場合は開始前に本シート (原本) とコピー2部を大会本部へ提出する。
注) 連戦の場合は試合前の攻守決定時に投球数確認シートを相手チームに開示する。

【責任審判員保管（試合終了後）】

チーム名：

球 場 名 :

[illegible]

注) 打席の途中で制限数に達し当該打者の打席終了まで投球した場合、制限数を()外、実際に投じた投球数を()内に記入する。

- ① 1日最大90球以内とする。
 - ② 連続する2日間で130球以内とする。
 - ③ 3連投（連続する3日間）する場合は、1日目45球以内、2日目の投球数を45球以内とし3日目の投球数を40球以内とする。但し、1日目、2日目で、当該打者の打席途中に、投球数が45球になった場合は、その時点で投球を打ち切らなければならない。
 - 4連投（連続する4日間）は認めない。
 - ④ 上記 ① ② の場合において、打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了までは投球を認め、制限数を超過した投球は投球数にカウントしない。③の場合3日目のみ打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了まで投球を認め制限数を超過した投球は投球数にカウントしない。
 - ⑤ 1日90球投球後、翌日投球を休めば3日目は90球の投球可能とする。
 - ⑥ 打者に対して投じた投球がバークとなった場合は、投球数にカウントする。
また、12秒・20秒ルールに抵触して課せられたボールは投球数にカウントしない。
 - ⑦ 申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球は投球数にカウントする。
 - ⑧ 雨などで特別継続試合になった試合も投球数にカウントする。
 - ⑨ 異なる大会であっても、連日投球する投手は、統一ガイドラインに則った投球数制限で投球するようお願いします。

【本シートの運用方法】
・投球数カウント者が様式Aへ転記し、試合終了後、責任審判員が保管する。

審判部・競技部通達

【セルフジャッジの禁止について】

2025年(令和7年)10月7日

野球特別規則(29)「マナーアップ・スピードアップについて」①ーケ.に規定されていますが、審判員が役割を担っているストライク・ボール、アウト・セーフ、フェア・ファウルボール等の裁定を、攻撃側及び守備側チームの指導者、選手が声出しまたはジェスチャーを行うことは禁止です。特に走者またはベースコーチが手を広げてセーフを表現する行為が多く見られるため注意してください。

【サイレントマナーについて】

2025年(令和7年)10月7日

野球特別規則(29)「マナーアップ・スピードアップについて」①ーコ.に規定されていますが、投手が捕手のサインを見たあと投球関連動作に入ったら、両チームのベンチ、グラウンドの指導者、選手は、不要なボークを発生させない観点から発声を控えてください。ただし「バック」のみプレイに必要な声出しとして認めます。投手が投手板を外すまたは牽制球を投じるために投球関連動作を中断した場合は、その限りではありません。

セルフジャッジの禁止及びサイレントマナーの東関東支部内周知事項

A:適用範囲の拡大

セルフジャッジの禁止及びサイレントマナーについては、支部内大会会場の応援席にも適用されます。

B:場所の指定

- 1) ベンチ及びバックネットに隣接する応援席
- 2) グラウンド及びベンチとの距離が著しく近い応援席

以上、セルフジャッジの禁止及びサイレントマナーについては、指導者、選手に加えて応援者にも同様のマナーアップをお願い致します。